



3/11
(木)

伊唐小で3.11特別授業 被災者から教訓学ぶ



被災当時のことを話す堀添さん

東日本大震災から10年を迎えた3月11日、伊唐小学校(山口陽校長・11人)では、震災の教訓を学ぶ授業が開かれ、全校生徒は震災を風化させない思いや防災の心構えを学びました。

この日は伊唐自治公民館副館長の堀添肇さんが講師として招かれ、当時居住していた岩手県北上市で被災した自身の体験を説明。堀添さんは「地震が起きたらまずは机の下に隠れること。日頃からどこに逃げるか決めておくことが大切」と児童らに呼び掛けました。

5年生の鴨川柊真君は「教えてもらったことを生かして、地震が起きたら逃げたい」と話しました。

このほか、発生時刻の14時46分に児童らは犠牲者をしのび、1分間の黙とうをささげました。

3/14
(日)

町制施行15周年記念事業 豪華芸人が笑いをお届け

町文化ホールで3月14日、町制施行15周年を記念して、宝くじふるさとワクワク劇場が開かれました。テレビでおなじみの出演者が多彩な芸を披露し、町内外から詰め掛けた観覧者約400人が笑いの渦に包まれました。

このイベントは宝くじの収益金を活用した社会貢献広報事業で、吉本新喜劇や漫才などが2部構成で行われました。

第1部は桂米助さんによる落語やオール阪神・巨人さんによる漫才などのお笑いオンステージで、次々と登場するお笑い芸人が自慢の持ちネタで会場を沸かせました。

第2部の吉本新喜劇メンバーによるほのぼののコメディ劇場では、おなじみのボケに対するツッコミが披露されるたびに、拍手が湧きました。

長島中学校1年生の竹山怜那さんは「オール阪神・巨人さんの話しかたが面白かった」と満足げでした。



桂米助さんの落語

見事な芸に笑顔の観覧者



オール阪神・巨人さんによる漫才

大爆笑で
締めくくった新喜劇

